

日本のベスト短編小説出版



D. ツウムルバートル氏
1958年 オブス県生まれ。日本語・日本文学専攻。
1976～1980年 モスクワ大学アジア・アフリカ学部留学。
1985～1988年 モンゴル国立大学言語学部。
1989～1990年 東京外国語大学留学。
1989年以降、ラジオ・ウランバートル日本語放送エディター兼アナウンサー、モンゴル国立工科大学日本語教師、モンゴル日本親善協会事務局長などを経て現在に至る。1995年からは国営テレビ局のスポーツ番組での大相撲解説者として活躍。またモンゴルの新聞・雑誌に日本の文化・スポーツ・文学などの紹介記事を多数発表。2003年からモンゴル囲碁協会会長も務める。

ツウムルバートル氏『日本ベスト短編小説集』を出版
翻訳家のデレグ・ツウムルバートル氏は、司馬遼太郎の『最後の将軍』『明治という国家』などをモンゴル語に翻訳して出版してきた。今回は『日本ベスト短編小説集』を出版した。同小説集には川端康成の『伊豆の踊り子』、大江健三郎『不意の喧嘩』、森鴎外『護持院原の敵討』など日本の著名な小説10編を翻訳した。インテルブック、スカイ・デパートなどで好評販売中である。同氏は「1996年モンゴル翻訳連盟賞」（1997年）を受賞したほか、日本文化の紹介に貢献したことが評価されて「在日モンゴル国大使感謝状」（2000年）を受け取っている。



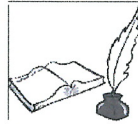
天気予報

23～25日西部県の一部、中央部県、ゴビ地域一部、24～27日東部県に雪が降る。風速は西部県、中央部県で18～20m、東部県やゴビ地域で16～18m、時々24mまで吹き砂嵐が発生する。西部県やオブス湖、イデル、テス、ボヤント、バイドラグなどの川の流域で夜間マイナス21～26度、日中マイナス4～9度、中央部県で夜間マイナス8～13度、日中0～5度、東部県のほとんどで夜間マイナス2～3度、日中10～15度、ゴビ地域で夜間マイナス1～4度、日中マイナス14～18度、他の地域で夜間マイナス1～6度、日中6～11度の予報である。



モンゴル銀行の為替レート (2010年4月22日)

	円	15.3
	米ドル	1400.55
	ユーロ	1882.41
	ルーブル	48.17
	元	205.15
	ウォン	1.26



ゾドの大きな被害は人災では？！

昨冬から今春にかけて発生したゾド（雪害・冷害）の被害は全国17県175郡、国土の80.9%におよび、9万7500人の遊牧民が被災（17人が放牧中に吹雪で死亡）、家畜の被害は650万頭に達しているそうです（『ウヌードゥル』4月15日付）。被害にあった皆さんには心からお悔やみ申し上げます。前回のゾド（1999～2000年）の被害は480万頭でしたから、今回の被害の大きさがわかります。社会主義時代2300～2500万頭で推移していた家畜は私有化されてから年々増え続け、とうとう4400万頭（非公式には5000万超とも）に達しました。すでに草原の牧養力をはるかに超えてしまっており、遊牧そのものが自然災害を受けやすい状態になっています。

モンゴル国立科学アカデミー編『モンゴル語詳解辞典』（全5巻）（2008年）の「ゾド」の項を見ると、「ツァガーン（白）」「ハル（黒）」「トーライ（蹄）」と3種類のゾドの説明があります。「白」は大雪による雪害、「黒」は寒波による冷害、「蹄」は増えすぎた家畜の蹄によるゾドです。民主化後、旧体制時代にあった家畜・畜産品の流通システムがなくなったため、遊牧民が商品市場に近づく傾向で、幹線道路沿いやウランバートル周辺の牧草地は「蹄」の被害をつねに受けるようになりました。また今回のゾドは「白」と「黒」が一度にきて、大きな被害を出しています。

ゾドが起こると、政府はすぐに国内の企業や国民から義援金を募るキャンペーンを始めると同時に、10年前と同じく外国や国際機関に援助の要請をしています。弊紙の報道だけでも、日本（70万米ドル）、ワールドビジョン（50万米ドル）、チェコ（1800万円）、ドイツ（10万ユーロ）など

が援助を決めています。昨冬から春にかけて雪と寒さが厳しかったのは事実ですが、今回の大きな被害の原因が天候だけにあるのでしょうか。「越冬の準備を怠ったために被害が拡大したのだ」という話はゾドになるたびに聞こえてきます。自らすべきことをした上で「ここまでががんばったが、今年の天候は厳しい。この部分を助けてほしい」という話ならわかりやすい。もしそうでないとしたら、チンギス・ハーンの末裔の独立国としてはあまりにもお粗末です。

ドルノド県などに住むボリヤド（ブリヤート）・モンゴル人の越冬（春）準備は徹底していて、ハルハ・モンゴル人の何倍もの干し草を備蓄するため、厳しい年でもゾド知らずだそうです。政府も彼らのことは「自分たちで何とかするだろう」と支援の対象にもしないし、現地の状況が報道されることもありません。ボリヤド・モンゴル人たちは黙々と厳しい自然に立ち向かっているのです。彼らのこの姿勢と優れた越冬の技術にこそもっと光が当たり、正しく評価されるべきです。

一部遊牧民のザルホー（怠惰）とそれを放置してゾドを防ぐ対策をしない政府の怠りも原因の一つです。10～12年周期と言われる次のゾドまでにぜひともしっかりした対策を考えて実行してほしいものです。

いずれにせよ、厳しい自然の中で心身共に疲弊しているのは地方の遊牧民です。命の次に大切な唯一の財産である家畜の死骸が累々と重なりあっているのは遊牧民にとってどれほど耐え難い光景でしょうか。まもなく良い季節になります。どうかあと少し頑張ってください。Zovlongiin etsest jargal baidag. 苦あれば（必ず）楽あります。

(内田敦之)

お詫び

コラム欄、しばらくお休みさせていただきました。わたし、実はひどい遅筆のうえザルホー（怠け者）なのです。気持ちだけは先走るのですが、筆（キーボード）はちっとも走ってくれません。これからはできるだけがんばって掲載させていただきますので、モンゴルの寛容さと時間感覚でどうぞ気長に見守ってやって下さいませ。

